

小学校

平成 8 年 度

教育研究員研究報告書

図画工作

東京都教育委員会

平成8年度

教育研究員名簿 (図画工作)

分科会	地 区	学 校 名	氏 名
A 分科会	世 田 谷 区	東 大 原 小	鈴 木 陽 子
	杉 並 区	高 井 戸 第 二 小	大 木 雪 美
	板 橋 区	常 盤 台 小	山 岸 三 郎
	練 馬 区	石 神 井 台 小	◎柴 田 英 文
	町 田 市	金 井 小	大 西 真 由 美
	福 生 市	福 生 第 四 小	二 橋 美 惠 子
	清 瀬 市	清 瀬 小	藤 波 ふ じ 子
B 分科会	港 区	麻 布 小	成 田 紀 子
	墨 田 区	更 正 小	朝 倉 寿 賀 子
	江 東 区	南 砂 東 小	小 島 弘 美
	大 田 区	久 原 小	江 原 貴 美 子
	足 立 区	洲 江 小	桜 井 敬 子
	江 戸 川 区	篠 崎 第 二 小	△松 元 利 道

◎全体世話人

△分科会世話人

担 当 教育庁指導部初等教育指導課指導主事

岡 本 昌 己

目 次

I	研究主題	2
1	研究主題設定の理由	2
2	研究の構造図	3
II	A分科会報告	4
1	A分科会の概要<自分の思いを表そう>	4
2	実践事例	5
3	研究授業	6
(1)	「森のおくりもの」	6
(2)	「MOZARTを聴いた球根は……」	8
(3)	「ここだよ、みんな！」	10
4	主題に迫るための視点一覧表	12
III	B分科会報告	14
1	B分科会の概要<造形表現から広げよう>	14
2	実践事例	15
3	研究授業	16
(1)	「変わって、かわって?!」	16
(2)	「ぼくの教室に住んでいるケムケム」	18
(3)	「竹、木、和紙で何作る？」	20
4	主題に迫るための視点一覧表	22
IV	研究のまとめと今後の課題	24
	- <概 要> -	

本研究は、子供たち一人一人の個性を認め合い、豊かな心をはぐくむ造形活動の工夫を研究主題に据え、「自分の思いを表そう」においては、様々な試みのできる授業、知識・体験を活かせる授業、様々な感覚を働かせる授業の視点から研究を進めた。

また、「造形表現から広げよう」においては、気付く⇒自然・文化・芸術や友達の商品から造形表現の広がり気付く、対話する⇒造形表現を通して自分自身を見つめコミュニケーションを深める、心を寄せる⇒作品で遊び、友達とのかかわりを発展させ、作品の価値を認め合い深く味わう、という視点から研究を進めた。

I 研 究 主 題

一人一人の個性を認め合い、豊かな心をはぐくむ造形活動の工夫

1 研究主題設定の理由

今日の教育を取り巻く状況は、様々な価値観が混在、交錯した混乱の中にあり、学ぶための手段や段階が目的化してしまい、人々の学ぶ目的観が希薄になり、自分の行為を規定し方向付けるものを見失わせてしまったような不安定なものになりつつある。

このようななか、大きな課題となっているいじめ問題は、自分の学ぶ意欲や関心や目的などに、主体的関係を見付けることができない子供たちの悩みによって起こる現象の一つではないだろうか。

他者との関係性を大切にしながら、自ら課題を見付け、自ら学び、考え、主体的に判断し行動する資質や能力を獲得していく「自分さがしの旅」が必要である。

さて、「自分さがしの旅」を思い描くとき、その旅は一つの支流から出発する川下りの旅に似ている。自分自身という舟を、自分の力で操作しながら、時には、他の舟と鱸綱を結び転覆の危険を回避しながら、やがて、人間性という大河に進みゆく旅ではないだろうか。

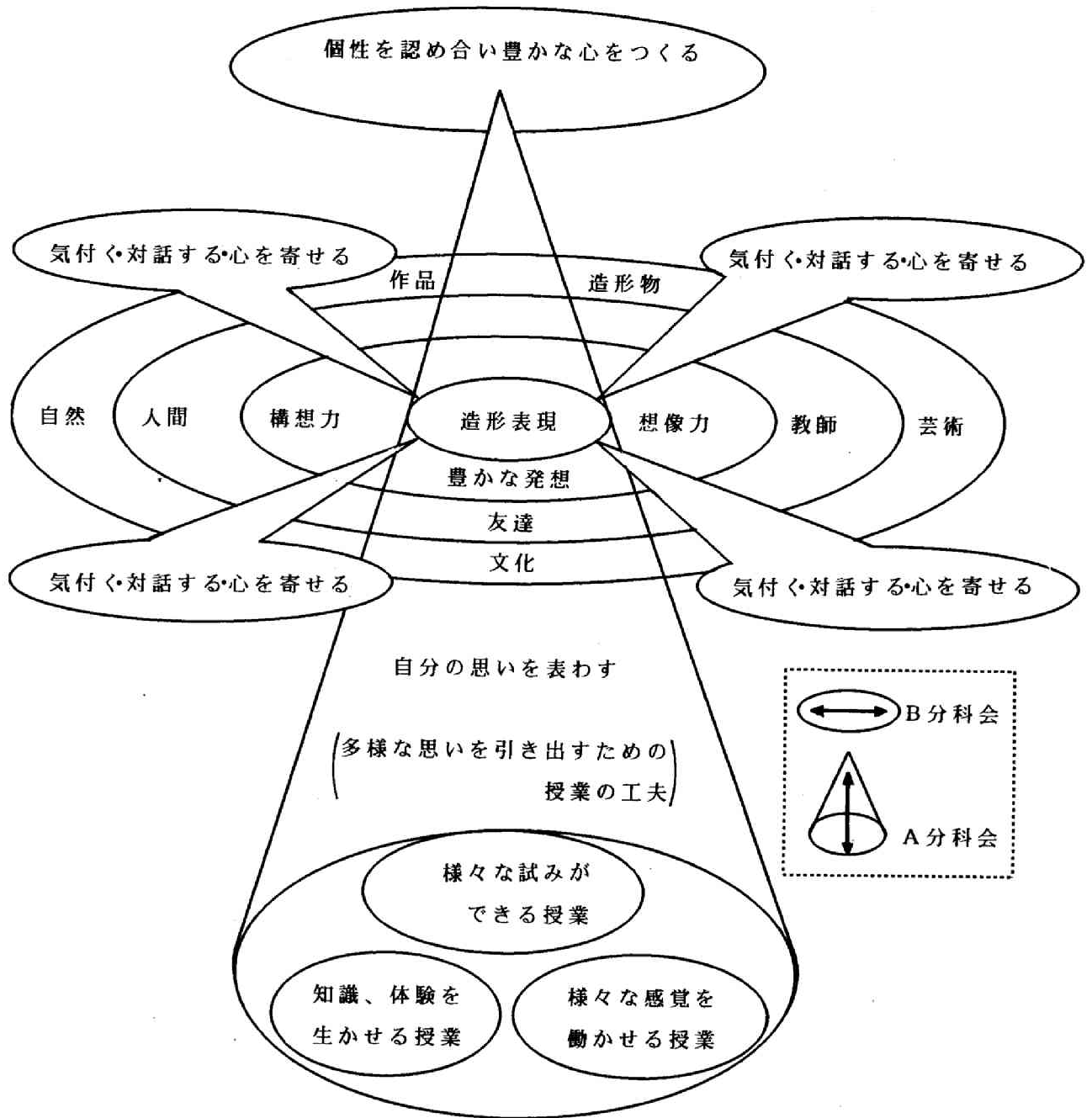
日々の図画工作の授業において、このように考えたとき、「自分さがしの旅」の第1番目には、一人一人の子供が感じている多様な思いを引き出すための授業の工夫が必要であることが考えられる。具体的には子供が発想や考えを広げたりまとめたりするときに、造形活動の途中でも、活動の展開が変更可能な題材・素材を設定することや、自ら考える上で体験や知識が生かされたり、多くの感覚を通して得た思いを表現に結び付けられるようなことが必要であると考え、①様々な試みのできる授業 ②知識・体験を生かせる授業 ③様々な感覚を働かせる授業の3本の柱を立てて授業を作ることにした。(A分科会)

2番目には、一人一人の子供が感じている多様な思いと言えども、他者との関係性を大切にしながら成り立たせることが大切である。子供自身が環境や教師や友人等との間で、かかわり合い認めあうことで「自分さがしの旅」は深まりを増す。具体的には様々な造形表現とのかかわりを広げることを意図し、①気付く—自然・文化・芸術や友達や自分の作品から造形表現の広がり気付く。②対話する—造形表現を通して自分自身を見つめ、互いのコミュニケーションを深める。③心を寄せる—作品で遊び、友達とのかかわりを発展させ、作品の価値を認め合い深く味わう。の三つの視点から授業の工夫を考えた。(B分科会)

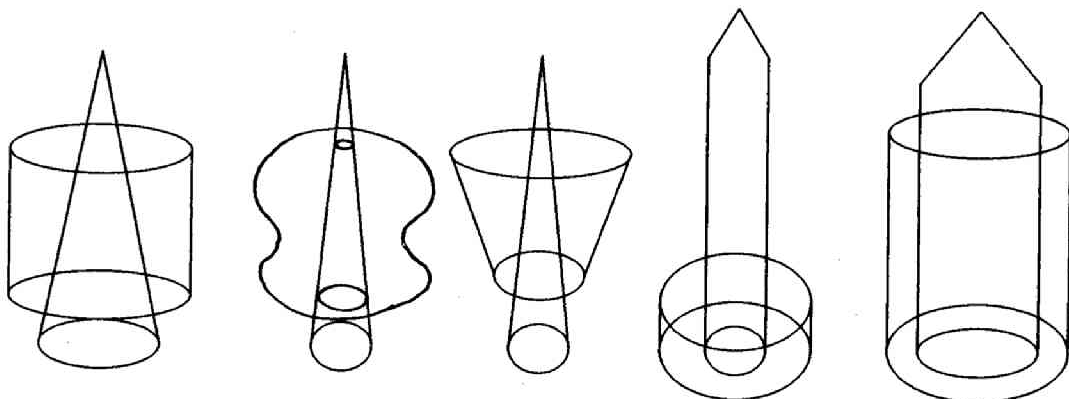
1番目と2番目の視点はそれぞれ、A、Bの分科会研究主題の構想につながっているが、これらは、別々の学習する時もあれば、同時に行われている時もある。研究主題「一人一人の個性を認め合い」の中にはこの二つの視点が内包されていると考える。

3番目には表現したり認め合うことによってはぐくむ内容についての視点である。研究主題「豊かな心をはぐくむ」の内容を、私たちは自然や文化の美しさから受ける感動や、自らの資質を伸ばそうとする自立心や、他者との共生や調和を結ぼうとする心であると考えた。要約すれば、次代にも持ち続けてほしいヒューマニティー(人間性)を育むことであると考えた。

研究構造図



題材や指導者によって構造図は自在に変形する



Ⅱ A 分科会報告

サブテーマ 自分の思いを表そう

1. A分科会の概要

造形活動をしていく際、子供たちのそのパワーの源となるものは、自らの表したい思いである。思いが生き生きと表現できた時、子供は創りだすことに喜びを感じ、自信をもつことができる。図画工作科の学習では、こうした活動を積み重ねる中で、子供の個性を磨き、美しいものや自然に感動する心、創造性など、生きるための資質をはぐくんでいくものと考えられる。

そこで、子供たちが本来もっている“思い”を率直に表現できるようにするためには何が必要なのかという原点に立ち返り、「多様な思いを引き出すための授業の工夫」をすることにより主題に迫ることにした。

<多様な思いを引き出すための授業の工夫>

- ① 様々なころみのできる授業
- ② 知識・体験を生かせる授業
- ③ 様々な感覚を働かせる授業

上記の3点を具体的な視点として取り上げ授業を作ることにした。

①の視点について

子供たちが自分の見方、考え方、感じ方などのよさを生かすことのできる授業であり、創造的に展開される授業でなくてはならない。「こうやってみたい!」「あんなこともできるかな?」など発想や考えを、広げたり、まとめたりでき、子供の造形活動が途中で変更可能であったり、行きつ、もどりつできるような題材・素材を設定していく。

子供の自由な活動が十分に保障される授業であり、自由な中でも、自分なりの発想・技能が生かせる内容にしていく。

②の視点について

子供たちの造形活動は、一人一人の過去の体験に基づいて外からの知識・感覚・技能などを獲得しながら、自分らしい表現へと結び付いている。子供の生活からかけ離れた体験が生かされない題材では、一人一人の思いは引き出せない。子供たちが題材を自分のものとして受け止められるように、子供たちの立場に添った題材を提案していく。また素材に関しても、子供たちの発想や構想が生かしきれるような身近で興味をもてる素材を、選択の手掛かりにしていく。

③の視点について

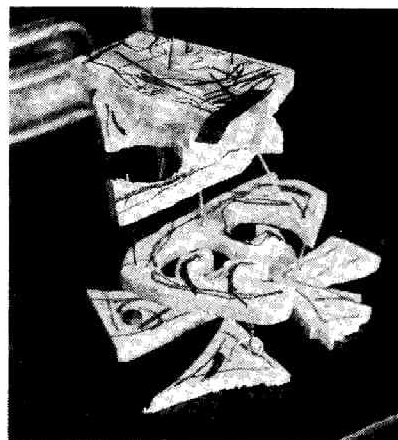
子供たちは日常的に、形や色、文字などの記号、音、手さわりの、身振り、表情などいろいろな表現を使い、学習や遊びをしている。

図画工作の授業でも、詩、音楽、ことばなどを子供たちの感覚に訴えることは、新たなイメージを刺激し、表現活動を助ける手立てになりうると考える。たとえば、子供たちが材料や道具などを選択する場合は、言葉で説明するだけでなく、子供たちが実際に材料などに、自分の手で触って確かめられるようにするなど工夫をしていく。

2. 実践事例

2年 「こんなのできちゃった」

- ①発砲スチロールの切れ端を各グループに多めに渡す。この過程で、子供たちは「さわる」「ふんわり飛ばしてみる」などの素材感を楽しんだ。
- ②発砲スチロールにアルミ線と竹ひごを使い、自由に立体構成をしていく。アルミ線は、あらかじめ適当な長さに切った物を用意しておいた。アルミ線はくねくねと良く曲がり、子供たちにも形付けやすいのできれいな曲線を作り楽しむ子供が多かった。
- ③発砲スチロールにアルミ線、竹ひごで立体構成した作品に粘着ガムテープ、毛糸、ボタン、マジック等で色付けし、アクセントにする。発砲スチロールを貼ったり、つなげたりする作業の中で子供たちは試行錯誤を繰り返し、自分なりのイメージをつかんでいった。発砲スチロールの白に粘着ガムテープをはる。マジックで着色するなどのアクセント付けは、各自が思いをこめ、楽しく作業できた。発砲スチロールの白が多いシンプルな作品や、色をたくさん使ったカラフルな作品など、その子らしいオブジェに仕上がった。



5年 「空にむかって」

- ①空の広さや高さを体験してほしい、友達と競い合うことで共感関係をもち、作ることの楽しさを知ってほしい、ということで、ブーメラン作りに取り組んだ。
- ②材料は厚紙（板目紙）と色のついた5mm厚の発砲スチロール板を使用した。まず一枚で飛ぶ形を探してみる。子供は手軽なL字型の物を選ぶ、しかし、ペラペラして飛ばない。次に正三角形のものを教えてみる。一応飛ぶが重さが足りない。そこで何枚も重なり、形の工夫が生まれてきた。
- ③子供たちが考えた形は、ドーナツ型、Y字型、十字型、十字架型、合体型（三角形＋十字や三角形＋円）など、実にいろいろな型の物を考え出した。教師の提示は正三角形だけである。次に発砲スチロールで飛ばしてみると、ドーナツ型の2枚重ねの物がよく飛ぶということを見つけた。よく飛んだら、デザインを工夫した。仕上がったら、友達と競い合ったり、良く飛ぶとばし方をいろいろと工夫して楽しく活動できた。
- ④このように、友達と、遊べる物を作ることで、作ることの楽しさが倍加されて、より意欲や関心が高まり、それが次の製作へのステップとなっていく。使用する素材も厚紙や発砲スチロール板と、接合部分の金具（割りピンや、鳩目）や接着剤である。このように身近な素材で、子供たちの満足感が十分に得られる題材であった。



3. 研究授業（A分科会）

(1) 題材名 「森のおくりもの」（蔓と枝を組んで：巣作り） 高学年（第5学年）

1. 題材設定とねらいについて

日頃から見慣れている学校の回りにある自然—公園や森や雑木林と直接かかわりを持ち、触れたり感じたりする体験を通じて造形活動へと広げてみた。授業は、森や緑に恵まれている環境を生かして、素材をそこへ行って集めてくることから始まった。図工室から外へ出る事で、心が開放され、森に入ること、人間本来もつ野性本能が目覚めてくる。鳥や虫と出会いながら枝や蔓を集めていると、何を作ろうかと自分の思いがふくらんでくる。ここでは、枝や蔓を組み合わせ、編んだり、絡ませたり、巻いたり、折り込んだりして、自分たちが虫や動物になって住んでみたくなるような巣を作ることにした。

2. 学習の流れ（8時間）

☞ 様々な試みの可能性 ○知識・体験を生かす
♥ 様々な感覚を働かせる

	第一次（1時間）	第二次（1時間）
教師の働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな木や植物について名前や生え方を説明する。 ・虫や鳥等にも気付くよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料を集める。 ・何が出来るかを想像しながらいろいろな種類を集めるようにする。
提案	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">森を知り、森を感じたら？</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">いろいろな材料を集めよう</div>
子供の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の近くの雑木林を歩き、いろいろな木や草が生えている様子を観察する。♥ ・外に出ると気持ちがいい。♥ ・木や草の匂いがする。 ・いろいろな虫や鳥等を発見する。○ 	<ul style="list-style-type: none"> ・枯れ枝、藤蔓、あけび蔓、葛等を集める。☞○♥ ・いろんな蔓が巻きついている。みんなで引っ張らないと取れない。○♥

3. 評価

- ・森に親しみ、森のここちよさを感じることができたか。
- ・蔓や枝の特性を生かして、自分の作ろうとする形に表現できたか。
- ・グループで作り上げることで、友達の表現の良さや、面白さを感じ取ることができたか。

4. 教材・用具




<教師> 植物の蔓、枝、葉、実等の自然素材、のこぎり、ペンチ、細いワイヤー

<子供> はさみ (手芸用の針金)

5. 考察

この題材は、素材である自然とかかわりをもつことが重要である。そのために身近にある森や緑の中に入り、触れたり、感じたりしながら素材集めをした。その結果、外に出ることによって、子供たちは生き生きと活動し、教室では見ることのできない様子を見ることができた。又、子供たちの開放された心は、次々に造形意欲をふくらませて、それが、造形活動へとつながるのだった。

今回の授業では、自然素材に限って使ったが、布や紙と組み合わせても楽しい造形活動になるだろう。又、造形活動そのものを野外で行ったり、出来た作品を野外に置いたり、飾ってみると、一層楽しい鑑賞の場となるだろう。

第三次（2時間）	第四次（3時間）	第五次（1時間）
<ul style="list-style-type: none"> ・枝と蔓を組み合わせる。 ・しっかり組み合わせる。 ・組み合わせ方、結び方、用具を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の作った枝を生かしてグループになって協力して作るように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巣にタイトルをつける。 ・他のグループの巣を鑑賞し、感想を書かせる。
<p>組んだり、編んだり、何ができるだろう</p>	<p>友達のものと一緒に合わせて大きい巣を作ろう</p>	<p>みんなで巣を楽しもう</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・枝と枝を組み合わせるとおもしろい形になるね。☺○♥ 	<ul style="list-style-type: none"> ・虫や植物の巣を作ろう。☺○ 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の巣のよさや工夫したところを発見する。♥ 鑑賞した感想を書く。○♥
		

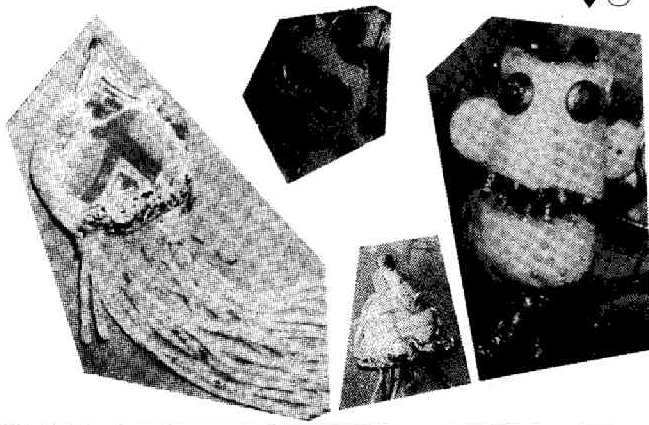
1. 題材設定とねらいについて

本題材は、未知の球根にモーツァルトの音楽を聴かせて、そこからおこる不思議な成長やすてきな出来事を絵で表すというものである。

音楽を聴くという感覚を働かせて、それぞれに感受したものをきっかけにし、自分の思いとして色や形に表現していく。提案は球根とモーツァルトの音楽であるが、素材や表現の方法は子供たちが自分の思いに応じて選択し、試みをしながら表現していくことで、多様な思いが引き出されることをねらいとして設定した。

モーツァルトの音楽は、和音やメロディー、モチーフなどが人に心地よく響く音楽である。未知の色や形がたくさんつまった球根から、モーツァルトの音楽と子供たちの感性が響き合うような表現の生まれることを期待した。

2. 学習の流れ（6時間）
- ☞ 様々な試みの可能性
 - 知識・体験を生かす
 - ♥ 様々な感覚を働かせる

	第一次（0.5時間）	第二次（2時間）
教師の働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 題材名と活動の流れを提案 ・ 音楽を聴いたときの気持ちは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 素材の提案 紙粘土、紙、子供が集めた身近材料など、素材を選択しながら音楽を聴かせたい自分だけの球根づくり
提案	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">球根に音楽を聴かせたら？</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">音楽を聴かせる球根をつくろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 素材を選ぶ ☞ ○ ・ 色や形、方法を試しながら考えてつくる ☞
子供の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の流れを知る ○ ・ 球根に音楽を聴かせるとどんなことがおこるか想像する ○♥ 	

3. 評価

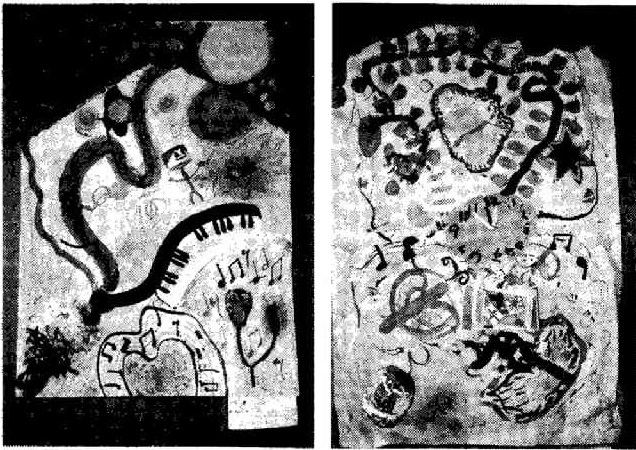
- ・音楽を聴いて感受したことをもとに、想像力を働かせて積極的に色や形に表していく。
- ・素材や表現の方法を選択し、様々な試みをしながら自分の思いを表していく。

4. 材料・用具

- <教師> 色画用紙，軽量紙粘土，パステル，樹脂系絵の具，モーツァルトの音楽
- <子供> 水彩絵の具，はさみ，ボンド

5. 考察

子供たちに「音楽を聴かせる球根をつくろう。」という提案をした時、ややとまどったようであった。実際の球根は外見は似ているが、じつは一個一個まったく違う。音楽を聴く前に、球根に子供たちの夢をこめて欲しかった。つくりだしてみると、野球少年、翼を広げた鳥のようなもの、早くも芽を出しかけているものがあった。モーツァルトを聴きながら心地よい雰囲気の中で子供たちなりの感覚を働かせ、勢いのある線、にじみやぼかしなど様々な試みが見られた。子供の思いをさらに深く掘り下げるためには、即興的な表し方以外の手立ても考える必要があると思われる。

第三次（3時間）	第四次（0.5時間）
<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりとした気持ちで音楽に耳を傾ける。 ・不思議な成長，すてきな出来事を絵の具などで様々な試みをしながら思い切って表現していくよう支援する。 <div data-bbox="331 1281 774 1429" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>さあモーツァルトを聴かせよう どんなことがおこるかな</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達の表現の違いやよさを認め合える雰囲気づくり <div data-bbox="917 1191 1273 1288" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>おこったことを伝えよう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・題名や表したかったことなどを書きとめ表現を温める ♪♥○ ・違いやよさを感じる ♥○
<ul style="list-style-type: none"> ・色や大きさを選んだ色画用紙（厚口）に球根を貼り，感じたままに色や形に表す ♪♥○ <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">  </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p>MOZARTを聴いた球根は……（子供のイメージより）</p> <ul style="list-style-type: none"> ★月に向かってとんとん伸びやがて満月の夜に、月で花を咲かせる。 ★うるさい歌花が成長する。つぼみの歌はうるさく、きれいに歌えるようになるまでとっくんする。 ★球根の中にひそんでいた花のようせいはきだし、ようせいのドラマをつくる。 ★1年かけて海の底から一生懸命伸び、空で花がさく。 ★赤い芽を出しみごと大きないちごの女王さまをさかせた。 ★いろいろな色の夢を出し夜の12時5分前になると消える。 </div>	

(3) 題材名 「ここだよ、みんな！」

中学年（第3学年）

1. 題材設定とねらいについて

価値観の多様化を容認することは重要な要件である。しかし「自分は自分、他人は他人」と考えるだけでは、いじめなどに代表される子供たちの心の問題を解決できるだろうか。



一人一人の違いがあっても、人と人との心をつ結びつける教育こそ、今一番求められているのではないだろうか。研究主題「豊かな心をはぐくむ」は、一人一人違う子供たちの思いを自分なりに表現しながらも、他者との共生や調和を結ぼうとする心を育てることだと考えた。

本題材は、迷路のような洞窟の中に迷い込んでしまった自分と、助けに来てくれる友達を絵で表そうというものである。

様々な試みを行い感覚を働かせる点から、洞窟作りに布・木片・砂・絵具と液体粘土を用いてゴツゴツした感触を表現に結び付けた。知識や体験から思いを広げられるようにするため、日常の友達関係から引き出せるように、友達の指の型押しを人物表現に結び付けることにした。

洞窟作りや友達の指の型押しで作る人物などは大変楽しい活動が期待できる。また、指の型押しをした友達同士は、「自分をどのように表現してくれるだろうか」と、お互いの表現に注目することが予想される。絵画を通したコミュニケーションが生まれることを期待した。

2. 学習の流れ（6時間） ♪ 様々な試みの可能性 ○知識・体験を生かす
♥ 様々な感覚を働かせる

	第一次（0.5時間）	第二次（1.5時間）
教師の働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・題材名と活動の流れを提案 ・様々な素材と液体粘土を紹介 迷路のような洞窟の作り方のヒントを例示する。 ・表現の広がりの可能性を児童に考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな迷路を描かせる。 ・様々な素材と液体粘土を児童に与える。 ・素材と液体粘土がなじむように児童の活動を支援する。 ・ユニークな表現を他の児童に紹介する。
提案	何がうまっているのかな	洞窟を作ろう
子供の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の流れを知る。 ・作ってみたい洞窟作りに生かせる素材を考える。○ ・表現の多様性を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・迷路を考えて描く。 ・素材と液体粘土で洞窟作りをする。 ♪ ♥
		

3. 評価

- ・多くの友達とかかわりながら自分の作品作りを楽しむ。
- ・洞窟の中の様子を想像して表現する。
- ・様々な素材を用いて表現の可能性を広げる。

4. 材料・用具

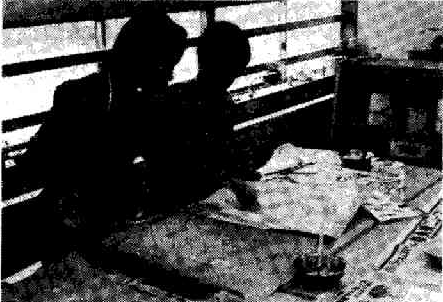
<教師> 黄ボール紙，液体粘土，粉末絵の具，木片や砂や布等の補助材料

<子供> 木片・布・小石・砂・土・紐等様々な身近素材の中から，液体粘土と混ぜてみたい素材を用意する。ただし生きものは除外すること。

5. 考察

子供たちは第二次の中で行った液体粘土と素材を混ぜる活動を大変楽しんだ。特に粉絵の具を混ぜることに大変な興味を示した。第三次の指で型押しする活動は，指導者が期待したような絵画を通したコミュニケーションが行われた。また，それが発展して第四次でできた絵を見て楽しむ活動にも積極的な鑑賞活動が展開された。

液体粘土の素材としての可能性を考える機会となった。

第三次（3.5時間）	第四次（0.5時間）
<ul style="list-style-type: none">・迷った自分と，助けに来てくれる友達の顔を指で型押しする事を告げる。・洞窟の中でどんな工夫をすれば，無事に助けてもらえるか工夫を考えさせる。 <p data-bbox="304 1469 628 1563">友達に助けてもらおう</p>	<ul style="list-style-type: none">・鑑賞会を行う指示をする。・小さなシールを配る。 <p data-bbox="922 1375 1273 1469">できた絵を見て楽しもう</p> <ul style="list-style-type: none">・友達の表現を鑑賞して，すばらしいところを見付ける。・教師からシールを受け取り，すばらしいと思った友達の絵に貼る。♥○
<ul style="list-style-type: none">・友達の指の型押しをしてもらおう。♥・人物の様子を想像して描く。・洞窟の中を想像して描いたり，作ったりする。○	

4. 主題に迫るための視点一覧表

題材の 視点 題材名	多様な思いを		
	主な素材	様々な試みの可能性	知識・体験の生かし方
こんなの できちゃった (2年)	発砲スチロール, アルミ線 竹ひご, 粘着 カラーテープ ボタン	・発砲スチロールをアルミ 線や竹ひごでつなぐことは 創作過程で何回も試行錯誤 でき発想の転換もしやすい	・1年の時ボタン, 糸を使い 平面構成をした。2年 ではアルミ線を加え立体的 な構成を新鮮な思いで取り 組む
ここだよ みんな! (3年)	黄ボール紙, 液体紙粘土, 身近材料 絵の具	・身近素材と液体紙粘土を 混ぜる行為と混合物作り ・迷路の洞窟の空間作成	・クラスの友人関係から想 像を広げられる ・1学期に指の型押しを経 験している
MOZARTを 聴いた球根 (4年)	軽い紙粘土 絵の具 身近材料	・思いに応じて用紙や表現 の方法を選ぶ ・自分で集めてきた身近材 料の中から選んで使う	・今までに体験してきた描 画方法を思いに応じて取り 入れる
空にむかって (5年)	厚紙, 発砲ス チロール板, 接着剤, カッ ター, 絵の具	・ブーメラン作りでいろい ろな飛ぶための工夫をする ため, 大きさ, 厚さ, 素材 選びを自分で選択	・紙ひこうきづくり, 凧あ げの体験から, 風向き(風 の流れ), 浮力や重力のバ ランスなどの問題を解決し てよく飛ぶことを発見する
森のおくりもの (6年)	植物の枝, 蔓 葉, 実 ペンチ のこぎり ワイヤー	・枝と枝を組み合わせて形 の変化を楽しむ ・蔓は曲げたり巻き付ける ことができる ・平面にも立体にも形が変 化できる	・形を変化させる時に目的 にあった用具を使う ・しっかり組み立てるため にどう巻き付けるのか, 結 ぶのか等を考える

引き出すための授業の工夫

生かされる感覚	教師の思い	活動で得られたこと
<ul style="list-style-type: none"> 発砲スチロールがもつ素材, 感触 くねくねと自由に曲がるアルミ線は子供たちの造形感覚を刺激する 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な素材に触れ, 造形活動を行なう過程で, 一人一人のイメージを広げていってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちにとって扱いやすい素材なので, 自分のイメージを伸び伸びと表現でき, 多様な作品ができた
<ul style="list-style-type: none"> 汚水作りのような混合することで変化するものを楽しむ感覚 乾燥した液体紙粘土のゴツゴツ 	<ul style="list-style-type: none"> 洞窟作りや指の型押しは楽しい活動が期待できる 指の型押しをした友達同士はお互いの表現に注目しコミュニケーションが期待できる 	<ul style="list-style-type: none"> 液体粘土と素材を混ぜる活動は子供の興味, 関心を刺激 液体粘土の素材としての可能性を考える機会となった 鑑賞活動も積極的に発展した
<ul style="list-style-type: none"> 音楽を聴いて感受したものを色や形で表す 色彩感覚 造形感覚 	<ul style="list-style-type: none"> 未知の色や形がたくさんあった球根から, モーツァルトの音楽と子供たちの感性が響き合う表現が生まれればと思う 	<ul style="list-style-type: none"> 球根への思い入れが強くなったせいか, 音楽を聴いた時球根をとりまく空間や出来事を思い思いの方法で表していた
<ul style="list-style-type: none"> 空の高さ, 広さ, 風の流れなどを全身で感じながら空間の認識, 自然との一体感・作って友達と遊ぶことにより共感する 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びを通じて作ることのおもしろさを知ってほしい 空の広がりを感じてほしい 飛ばしっこすることで友達との共感関係を作ってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 空という自然の体感, 空間を味わうこと よく飛んだ時の快感と作る喜び 飛ぶための工夫と経験 友達と共感すること
<ul style="list-style-type: none"> 森には色々な植物があることを認識しながら森の住人になった気分を味わう 自分の空間を作ろうとする欲求が造形意欲に結び付く 	<ul style="list-style-type: none"> 自然を理解し, 造形活動を通じてより親しみを感じてほしい 身近にある素材を使って様々な活動ができることを知ってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 子供にとって活動しやすい内容であった 本来子供のもっている感性や造形意欲を呼び覚ます活動であった

Ⅲ B分科会報告

サブテーマ

造形表現から広げよう

- ・気付く
- ・対話する
- ・心を寄せる

1. B分科会の概要

子供たちは、様々なかかわりの中で、自分の思いを表し、他を認め、互いに成長していく。一人一人の多様な思いは、友達や教師とのかかわりの中で、互いに認め合い、自分自身に自信をもち、深められる。また、人とのかかわりだけでなく、環境とのかかわりも含めて、子供たちの造形表現が広がる授業研究を目指した。

単に、目新しい素材の提示や作品完成だけの授業でなく、一人一人のよさを認め合える場を多様に設定し、造形活動から豊かに広がる授業を工夫することで主題に迫ることにした。

<気付く>

- ・自然、文化、芸術や友達の作品や自分の作品から造形表現の広がり気付く。

身近かな毛糸の柔らかな感触や、地域産業の革という手応えのある素材、あるいは木や竹などの様々な素材の性質や魅力に気付き、自然の美しさや、文化、芸術に触れ、造形表現のよさや美しさに気付いたり、友達の作品や自分の作品により深くかかわることによって造形表現の可能性や広がり気付く。

<対話する>

- ・造形表現を通して自分自身を見つめ、互いのコミュニケーションを深める。

自己を見つめ、一人一人の個性、互いのよさを認め合うには、より良いコミュニケーションが不可欠である。造形表現を通して、自分自身と、友達同士と、あるいは教師と様々な場や形態でコミュニケーションをとり、より深く自他とかかわれる機会を多様に設定した授業を試みた。

<心を寄せる>

- ・作品で遊び、語り合うなどのかかわりを発展させ、作品の価値を認め合い深く味わう。作品を描いたり作るだけで表現を終わらせず、作品で遊んだり、語り合ったり、自由な発想や新たな発見が生まれたり、さらに造形表現を豊かに広げる場の設定や発展的な展開の授業の工夫を試みた。

以上の3つの視点がかかわり合うことで、造形表現が広がることを目指し、各授業の実践を重ね、研究を進めた。

2. 実践事例

3年 M78星雲の生き物たち

- ① 遠い遠い宇宙の果てに住む、まだだれも見つけない生物を想像しようという投げかけで授業を始めた。黄ボール紙を水で濡らすことにより、自由に形作れるようにし、乾燥して形が固定するまで輪ゴムやクリップでとめておいた。思いに近いように彩色をしたり他の材料と組み合わせた。
- ② はじめての技法に刺激を受け、比較的容易な加工で思いの形が作れることもあり、一人一人が個性的な形を見付けることができた。
- ③ 作品完成後「生物の性格や特徴を発表しよう」という投げかけや、生物のすみかをグループで作って、「M78星雲の世界をみんなで再現してみよう」という提案をした。(写真)
- ④ それぞれの子供たちが作った作品を媒体として児童相互のコミュニケーションを図ることができた。



4年 ○○に熱中!

- ① 何かに熱中している子供の瞳は輝き、心は動いている。一人一人が違う、その熱中しているものを、子供の中から引き出し表現させたいと考え、「みんなが、熱中している時は、ステキだね!先生に熱中していること教えてよ!」と投げかけた。
- ② 柔らかいアルミ線の芯材と粘土で自分を作り、木っ端や紙、布などでその場面に必要な小道具を作る事にした。一人でも、友達とでも作って良いことにした。
- ③ 子供たちは、アルミ線で人型を作り新聞を巻くと「ミイラ人間」と言って遊び、更に、粘土を付けて基本的な粘土の扱い方を学び、小道具を工夫したり協力して作っていった。(写真)
- ④ 作品完成後 合評会で互いの作品を見合ったり、紹介することで、互いの表現の工夫やよさに感心していた。



3. 研究授業（B分科会）

(1) 題材名 「変わって、かわって?!」

高学年（第5学年）

1. 題材設定とねらいについて

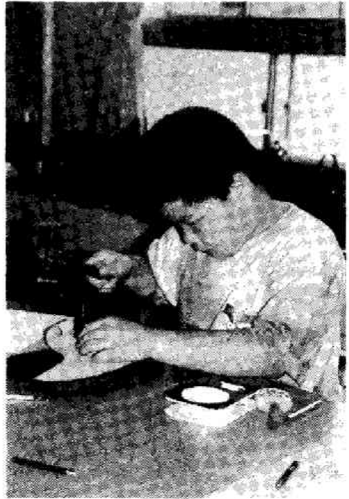
3年時の社会科では皮革工場を見学し、実際に皮なめしを体験する。それを図工で取り扱い、環境とのかかわりを重視し、造形表現の広がりへと発展させた。

導入時に皮製品にはどのようなものがあるかを知り、皮の感触を楽しんだうえで皮を平面に構成することで意外な美しさを発見することができる。平面上の構成ではあるが、他の素材にはない皮の特性を十分に生かして、半立体に表現できることで創作の可能性が広がる。皮を扱う工夫をしながらアイデアを生かして自由に創作を楽しむのではないか。また皮工作の道具の使い方にも慣れ、皮により親しみを覚えることができると考えた。

2. 評価

- ・自分らしいイメージができたか。
- ・発想をいかした構成ができたか。
- ・素材の性質を考え、用具の使い方を生かしたか。

3. 学習の流れ（6時間） ☆気付く ◎対話する △心を寄せる

	第一次（1時間）	第二次（1時間）
教師の働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・皮製品に興味をもてるように、実際に提示する。 ・皮の特性を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・皮の製作技法について説明する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 穴を開ける、丸める、折る、水で濡らして乾かす。 型押しするなど </div>
提案	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 皮でつくられたものはどんな物があるかな？ </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 3枚の皮をいろいろな形に構成しよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・皮の性質を生かすために、ハサミで切ったり、水でぬらして丸めて乾かす作業を行う。 ◎☆
子供の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・知っている限り、皮で作られた物をあげてみる。 ・牛皮、豚皮の違い、手に触れた感触などを確かめ合う。 ・皮はぬらしたり、乾かしたりすると、どの様に変化するかを知る。☆ 	<ul style="list-style-type: none"> ・はとめ抜きで穴を開けたり刻印で型押しをする。 

4. 材料・用具

<教師> 黄ボール, 皮いろいろ, はとめ抜き, 木づち, 刻印, ゴム版, 修正液, ボンド, ドライヤー

<子供> ハサミ, 接着剤

5. 考察

地域特性により, 革(皮)は率直に取り入れ易い材料である。さらに皮を扱う道具にとっても興味を示し, 材料・道具を提示するだけで意欲がわき, 早く作業にとりかかりたくてせかすほどであった。

皮は丈夫で固く手応えのある材料なので, 多少の失敗は方法を変えることでやり直しがきき, 個々の思いを伝えられたようであった。

ただ作業の流れとして, 皮をもっと切って楽しんでから構成してもよかったのではないかということ, 黄ボールも漏らしてはどうだったかという意見がでた。いずれにしても, 授業のなかで自分で発見すること, 新しい感動がわきあがること, これらを大事にしていきたい。

第三次 (3 時間)

- ・皮の思いがけない効果を見せ, 工夫の発展へと促す。

材料の工夫ですてきになるよ。

- ・個々の工夫を黄ボールにならべてはる。(いろいろな皮を選ぶ。)
- ・修正液の白を効果的に使って, 自由に描く。◎△

第四次 (1 時間)

- ・出来上がったお互いの表現のよさ, おもしろさを認め合える場をつくる。

さあ, 皮はどのように変身したかな。

- ・始めに見た皮がかなり変化していることに気づき, 自分と友達の表現の違いや, よさを感じる。◎△



(2) 題材名 「ぼくの教室に住んでいるケムケム」

低学年（第2学年）

1. 題材設定とねらいについて

導入として毛糸による素材体験を考えた。低学年にとって、暖かみのある色合いと、柔らかな感触をもつ毛糸は、とても魅力ある素材である。ボンドの接着力によって毛糸を平面として扱い、楽しみながら色の重ね合う美しさを体験することができる。


次にその素材体験から、より子供の思いを表せる表現活動（ここでは、生き物を作る）を通して、子供一人一人の豊かな発想や表現を引き出すことができるのではないかと考えた。

さらに個人の作品の完成がこの題材の終わりではなく、作品を生活の場である教室のあちこちに飾ることで、図工という表現活動をより身近かに感じ、友達の作品とも触れ合うことで次の造形活動への意欲や個性を認め合う環境ができると考えた。

2. 評価

- ・毛糸の感触を味わいながら、思いのままに作って遊ぶ活動を楽しむ。
- ・毛糸のもつ弾力性や色合いから自分のイメージを膨らませ、思いを広げて作る。
- ・作品に住む場所を与えることによって、更に空想を広げることができる。又、友達と作品を鑑賞し合い、造形に対する関心を高める。

3. 学習の流れ（4時間） ☆気付く ◎対話する △心を寄せる

	第一次（2時間）	第二次（1時間）
教師の働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に作ってみて、子供に意欲をもたせる。 ・食べ物など具体的な物にこだわらず彩りを楽しむことを提案。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見本に作ったケムケムを教室に隠して置き、子供に見せる。 ・ホチキスや目玉の付け方など指示する
提案	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">毛糸のお好み焼きを作ろう！</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">毛糸のケムケムを作ろう。</div>
子供の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・色とりどりの毛糸の柔らかな手触りを楽しむ。☆ ・OHPシートにボンドをのせ、わりばしで広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・OHPシートから毛糸をはがし、想像力を働かせながら、手足や目をつけてゆく。 ・作った生き物で友達同士遊び合う。◎
		

4. 材料・用具・場の設定

<教師> OHPシート, 木工ボンド, 毛糸, 目玉になる物, モール, ホチキスの芯, セロファンテープ, トイレットペーパーの芯

<子供> 毛糸, はさみ, ホチキス, 筆記用具, わりばし



場の設定 図工室(第一次) 子供の教室(第二次~第四次)

5. 考察

第一次では, 毛糸の感触や色合いの美しさを, 楽しんで活動することができた。

第二次の, 生き物に見立て作り出すところでは, OHPシートからボンドを剥がし, 毛糸のかたまりが平面になったり立体になったりすることに興味を示した。友達同士, 作品をひもでつるして揺らしながら見せ合い, コミュニケーションが出来たようだった。ただ, ホチキスの扱いについては, 力が不足しているため十分に使えず苦勞していたので, 用具についてはよく検討して使うようにしたい。

第四次の発表は, 慣れていないせいか恥ずかしそうに発表する子もいたが, 楽しい雰囲気できた。このような発表を各学年一回は経験させていきたい。

第三次(15分)	第四次(30分)
<ul style="list-style-type: none"> ・作り終わったら, 好きな名前を付けてみよう。 ・自分のケムケムが, 住んでみたい場所に, ケムケムを付けてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの表現のよさを見つけ合い, 認め合える, 温かい雰囲気をつくる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ぼくの教室にすんでいるケムケム </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ケムケムの好きな物と ケムケムの名前を発表しよう。 </div>
<ul style="list-style-type: none"> *私はね, ○○にしよう。 ・作ったケムケムを教室内の窓, 教卓, いろいろな場所に付け, 教室中をケムケムのすみかに見立てる。△◎ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケムケムに自分の好きな名前を付け, 作品の前で名前と好物を発表する。△
	

(3) 題材名 「竹、木、和紙で何作る？」

高学年（第5学年）

1. 題材設定とねらいについて



複数の素材を道具で加工し、それらの特性を手で感じ取りながら、自分の好きなものを作っていく題材である。今回扱う素材が日本で伝統的に利用されてきたことや、自然の素材のよさについて、いくつかの工芸品を見ながら説明をする。活動の主な内容は、竹と木と和紙による造形表現であるが、作品の完成をめざす一方通行の活動に終わらないよう、竹割りや紙漉き体験から感じたり、気付いたりしたことも評価できるような題材としたい。

このような題材で「～を作ろう」というような目標を決めると、起用さや出来映えで比較されることが多いが、本題材では完成よりも作っている過程での試行錯誤を大切にしたい。友達と助け合ったり、作りながら計画を変えたりして、自分にできることが広がる喜びを感じてほしいと思う。

2. 評価

- ・素材の特性を体感しながら作りたいものを作る。
- ・加工に適した道具の安全な、基本的扱い方を知る。
- ・自然素材やその加工品のよさ、美しさを味わう。

3. 学習の流れ（8時間） ☆気付く ◎対話する △心を寄せる

	第一次（0.5時間）	第二次（3.5時間）
教師の働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞教材、材料の提示 ・自然素材のよさについて考えさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の扱い方について指示 ・素材別にグループ分け 
提案	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>どんなものが作れそうかな</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>材料を作ろう</p> </div>
子供の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸作品を見たり、手にとってみる◎ ・工夫しているところに目を向ける ☆ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ナタで竹や木を割る☆ ・和紙を漉く☆ ・小刀で削る☆

4. 材料・用具

<教師> 竹, 針葉樹材, 和紙すきの材料と用具, ナタ, 鋸, キリ, 紙やすり, 小刀, 木工用ボンド

<子供> はさみ, のり, 筆記用具

5. 考察

目標とする完成作品がなくても, 子供たちはお互いに影響し合い, また様々なことから自分の活動にめあてをもち, 次はこうしたいという意欲をもつことができる。そのために教師は子供に何を指導し, 何を子供の自由にしなければならないかを, 特に考えさせられた。その子の中で本当に完成度の高い作品は, 自分の意欲が継続する時にしか生まれてこないと考える。製作の中で素早く完成を目指す子もあれば, 延々と材料づくりに取り組む子もあるが, そうした自分の思いや, ペースを認めた上での指導が今後の課題である。またこの一題材だけではなく, 6年間の指導計画のなかでの位置付けも明確にしていきたい。

第三次 (4 時間)

- ・素材別のグループで協力させる
- ・材料の組合わせでどんなものができるか考えさせる
- ・友達のアイデアにも目を向けさせる
- ・「材料作りは何度でもやっていいよ」
- ・「こんなものもできるんだね」

材料を組み合わせて何作ろう

- ・材料作りを続ける☆◎
- ・材料の組合わせで何を作るか考える△
- ・友達と協力する◎
- ・作りたいものを作る
- ・制作メモに感じたことなどを記録する

第四次 (1 時間)

- ・友達の工夫を紹介してもらう



どんなものできたかな

- ・友達のよいところに気付く☆
- ・感想を制作メモに書く

4 主題に迫るための視点一覧表

題材の視点, 題材名	造 形 表	
	気付く・対話する・心を寄せる	
	素 材	導 入 の 工 夫
ぼくの教室に住んでいるケムケム (2年)	毛糸のもつ暖かい色合い柔らかな感触に気付く。 副教材に毛糸と同じ感触のあるモールを選んだ。	各過程ごとに題材名を変えて、その時間に行うことをはっきり示す。第二次では、生き物を教室に隠してから取り出して見せる。
M78星雲の生き物たち (3年)	紙を水に濡らして形を作るという意外性からの刺激と使いたい材料を自由に選択させることで自分らしい表現ができる。	宇宙飛行士になるという想定で星雲の写真を見せ、誰も見たことのない生物を想像した。一人一人の発想が個性として生かされた。
〇〇に熱中!! (4年)	やわらかいアルミ線と新聞紙を芯材に、粘土を付け「自分をつくる」。熱中している場面に合わせて身近材料(木片, 紙, 布等)で小道具を作る。	熱中している時のみんなはステキだね。どんな事に熱中しているのか教えてねと投げかけ、それぞれの思いを引き出す。その一瞬を表す工夫をしようと提案する。
変わって かわって?! (5年)	革(皮)という手ごたえのある素材を使い、感触を楽しみつつ、いろいろな技法を体験した。牛皮, 豚皮の違いも分かり、種類に応じた作り方をする。	まず身近にある革製品をあげてみて、その皮はどのようにして作られるかを知る。革(皮)の特性に興味をもち、何種類かの皮を手にして感触を味わう。
竹・木・和紙で 何作る? (5年)	竹や木を裂く, 紙を漉くなど、素材と手で対話する。	自然素材を生かした工芸品の工夫した所に気付いたり心を寄せる。

現 の 広 が り		
展開（子供の活動）	教師の思い支援	評価・まとめ
<p>第一次では毛糸の素材そのものと対話する。第二次では作品を通して友達同士対話しながら、空想を広げる。</p>	<p>毛糸のもつ色彩、質感を十分味わわせたい。毛糸のかたまりが立体になったり、生き物になって教室に現れる意外性を、楽しませたい。</p>	<p>第二次を教室で行うことで作品が自分の生活の場（教室）に提示され、他の作品と一緒に教室の雰囲気を作り変え、より広がりのある授業となった。</p>
<p>黄ボール紙を湿らせて柔らかくし、思いの形にし、形を保持して乾かす。好みの材料で構想に迫る。グループで生物のすみかを作る。</p>	<p>好みの材料を使うことで個性に応じた表現を楽しませたい。また、生き物たちがひそむ世界を全員で作りに上げることで、どの個性の存在も認めさせたい。</p>	<p>多目的室の広い空間に生き物たちのひそむ世界を作り、その中の世界、自分の作品、友だちの作品の関係を発表させることで、作品全体への感心が高まった。</p>
<p>友達とでも、自分だけでも良いが「熱中している一瞬」を試行錯誤しながら、工夫して作る。互いを見合い、よさを見つけ合う。</p>	<p>それぞれが一番気持ちが動いた一瞬を自分なりに表現させたかった。共通に粘土で自分を作ることにより、人体に気付かせたかったのと、共同の場面でも対等に表現しながらかわらせたいと思った。</p>	<p>その子の熱中しているものやあこがれも含めて表現されていて、児童理解が深まった。また技術を交流したり工夫したり、小道具作りを楽しんでいた。友達の工夫にも共感したり感心していた。</p>
<p>皮の性質を生かすためにいろいろな技法（穴をあける、丸める、水でぬらしてかわかす等）があることに気付く。構成のしかたで表現に広がりをもたせる。</p>	<p>地域に根ざした教材を使うことにより、地域の産業に興味をもつことをねらった。皮を思いっきりよく切ったりするふだんではできないことを味わい、革の特性の意外性を発見し、製作を楽しむ。</p>	<p>枠にとらわれない自由な発想ができるようになり、工夫次第で表現が広がる。工芸用に使いがちな皮を絵として構成したのが、おもしろかった。地域の皮革産業に理解と興味がわいた。</p>
<p>素材にあった道具で材料を加工し、自分の思いを生かす。</p>	<p>道具の扱い方を指導する。伝統的な技法を紹介する。</p>	<p>自然素材のよさに気付き、自分なりの工夫を作品に生かすことができた。</p>

IV 研究のまとめと今後の課題

1. 研究のまとめ

研究主題やA・B分科会テーマに基づいて考察し、以下の点が明らかになった。

- ・小さな思い付きも大切に、一人一人の子供が生き生きと楽しく表現できることを基盤にし、それぞれに違う多様な思いを引き出す授業の工夫をすることで、自分で材料を選んだり表現方法を思考する過程に喜びを感じながら活動できた。
- ・さらに一人一人の表現を他者や環境との関連性を大切に、より積極的にしていく授業の工夫をしていくことで、教室や造形表現の場にさらに楽しい雰囲気生まれ、様々なかかわりのなかで互いに学び合いながら、造形表現への新たな発見や関心が深まった。

A分科会「自分の思いを表そう」

- ・自由な発想や思いが生かせ、途中での変更可能ができ、広がりのもてる素材、題材の設定を試みた。
- ・自らが学ぶ意欲や目的をもって、他の学習での知識や、生活体験を生かして表現のできる手立てを考えた。
- ・一人一人が感じた様々な感覚を大切に、豊かな発想で表現することや、友達のよさを感じとることのできる造形活動の工夫をした。

B分科会「造形表現から広げよう」

- ・自然や文化、芸術のよさや美しさにふれることにより、感動のある豊かな造形活動を展開できる授業を試みた。
- ・教え合い、学び合う友達関係や、認め励ます教師の支援、自分や友達のよさに気付くカードや発表などの機会の設定等により、互いのコミュニケーションを深める手立てをもてた。
- ・造形表現を通して互いを生かす場を作り、遊び、語り合い、楽しみながら、互いの個性を認め合い、広がりのある造形活動に発展した。

2. 今後の課題

「一人一人の個性を認め合い、豊かな心をはぐくむ造形活動の工夫」を研究の主題として、A分科会では個の内面から、B分科会では個を取り巻く環境から研究を進め、子供が自分の思いを表し、様々なかかわりの中で互いを認め合える授業の工夫に取り組んだ。教師が子供の思いや願いを受け止め、学び合いかわりながら行う造形表現の広がる場や機会の設定は、今後もさらに研究を深めていくことが大切である。子供の発達段階に応じた題材や授業の工夫、小学校6年間の見通しをもった指導計画の中での位置付けや、支援、評価の在り方などの観点からもさらに検討し、研究を深めていくことが必要である。